

令和6年（行コ）第9号・サケ捕獲権確認請求控訴事件

控訴人 ラポロアイヌネイション

被控訴人 国ほか1名

2025（令和7）年8月26日

札幌高等裁判所 第3民事部2係 御中

控訴人訴訟代理人

弁護士	市	川	守	弘
弁護士	長	岡	麻	寿
弁護士	毛	利		節
弁護士	難	波	徹	基
弁護士	木	場	知	則
弁護士	今	橋		直
弁護士	皆	川	洋	美
弁護士	伊	藤	啓	太

準備書面（4）

アシリチェプノミの説明

本書面は、アシリチェプノミの内容及びアシリチェプノミがサケの豊漁を神々に祈る儀式であることを主張書面として提出するものである。

1 アシリチェプノミの意味について

アシリとは、「新しい」という意味で、「チェプ」とはサケのことをさしている。甲20の345頁では、「さけ漁が始まる前には、コタンのエカシたちは川口に集まって、ペツカムイノミ（川の神の祭儀）をなした。このカムイノミをしないうちは何人もさけをとることが許されなかった」と記述されているが、これがアシリチェプノミのことである。なお、地域のコタンによってカムイの名称やノミ（祭り）の名称が異なるところ、甲20は、白老や平取などの「シュムンクル（サムンクルなどともいう）アイヌ」（西の人の意味）の名称に従っている。控訴人は「メナシクルアイヌ」（東の人の意味）に属するため、甲20の名称と違う場合が多い。

したがって、祈りをささげる言葉も各地のコタンによって異なるが、一般的に「秋が来ました」「このコタンのために海からたくさんのさけをのぼらせて、お恵み下さい。」などとカムイに祈りをささげる（同ページ）。

十勝川でのアシリチェプノミのカムイに捧げる言葉は次のような言葉である。（甲120）

＊ チワシコロカムイ（十勝川の神）

十勝川の神よ、しっかりと私たちを見守って、サケがたくさん遡上するようご配慮ください

* ペップトウンカムイ（河口の神）

河口の神よ、河口が塞がることのないように、サケがたくさん遡上するようにご配慮ください

* トマリコロカムイ（船着き場の神）

これからサケ漁をしますので、船着き場の神よ、この船着き場へサケがたくさん遡上するようにご配慮ください

* ワッカウシカムイ（水の神）

これからサケ漁をしますので、水の神よ、川の中に汚れたものがないように、サケがたくさん遡上するようにご配慮ください

* ウォルンカッケウカムイ（川漁の神）

これからサケ漁をしますので、川漁の神よ、しっかりと私たちを見守って、豊漁になるようにご配慮ください

* カムイフチ（火の神）

今年も、サケが火の神のところへ訪ねてきました。火の神よ育ての神よ、来年もサケが大きな荷物をこしらえて、火の神のところへ訪ねてくるように、土産を持ってくるように、よき伝言をなさってください

これらの言葉からわかるように、アシリチェプノミは、糧であり、交易品として重要な経済的基盤をなすサケの豊漁を祈る儀式であり、このアシリチェプノミの後にサケ漁を始める重要な儀式である。

2 ヌサ及び祭事場について

ヌサは、祭壇とも訳されているが、長さ2メートル前後の木の棒の先端を削って立てかけているものである。それぞれのヌサには前記したカムイ（祭神）が宿っている。ヌサにまつる神は左から

チワッコロカムイ（十勝川の神）

ベップトウンカムイ（河口の神）

トマリコロカムイ（船着き場の神）

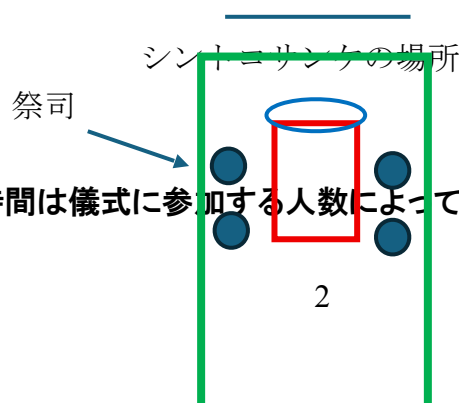
ワッカウシカムイ（水の神）

ウォルンカッケウカムイ（川漁の神）

カムイフチ（火の神）は2本立てる。

祭事場を模式図化して図示すると次のとおりである。

ヌサを立てる場所



3 儀式の流れ(時間は儀式に参加する人数によって異なるがおよそ1時間30分程)

度)

ア シントコサンケ

これは儀式に使用するトノト（酒）の良し悪しを判断する儀式である。最初にトノトを呑んだアイヌが「**ピリカ**トノト」（「いい酒だ」）と宣言した時に、このトノトを使っても良い、ということが決まる。（なお、「ウエントノト」（悪い酒だ）という宣言されたら、再度トノトづくりから始めなければならず、儀式は行えない。）

シントコとは、トノトを入れる容器の意味である。

＜その他の用語について＞

イクパスイ 人間界と神の世界をつなげる唯一の祭具で各自が持つ棒状のもの。言葉やトノト、供物などの物を神の世界に届ける重要な**ン**は橋渡しをする祭具

トゥキ トノトを入れる盃

イナウ 柳等の木の皮を削り、さらに一部を房状に削ったもので神への贈り物と言われている

イ 儀式が始まる

- ① 祭司が火の神に祈りを始めることを告げる。
- ② 火の神へヌサの神々に祈ることを伝える。
- ③ 各自の担当する神へ、ヌサの前に行ってそれぞれが祈る

ウ 火の神へはじめてのサケ漁への伝言を頼む

エ 火の神へ祈りの終わりを告げる

オ 踊りを奉納をする(20分から30分)

* クーリムセ（弓の舞）

狩人が草を分け、枝を払いながら、森に入り、鳥を射ようとしたが、鳥があまりに美しく射ることをやめて戻ってくる、という話の踊り

* エムシリムセ（剣の舞）

剣を携えた二人の男が、悪いカムイや厄災を払うための踊り

* ポロリムセ（輪踊り）

みんなで輪になって楽しく踊っていることを神に知らせる踊り

カ 囲炉裏に戻り、火の神にイナウを燃やして煙をおくる最後の儀式(10分程度)

イナウを燃やすことで、イナウが煙となって神の世界に贈られていく。